

**System Center Configuration Manager および
System Center Virtual Machine Manager 用
Dell EMC OpenManage Integration for
Microsoft System Center バージョン 7.2
ベストプラクティスガイド**

メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

© 2018 - 2019 Dell Inc. またはその関連会社。。Dell、EMC、およびその他の商標は、Dell Inc. またはその子会社の商標です。その他の商標は、それぞれの所有者の商標である場合があります。

1 OMIMSSC 管理に必要なリソース	5
2 SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能の許可の検証	6
WMI へのユーザーアクセスの設定	6
3 SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能の PowerShell 許可の検証	8
4 OMIMSSC でのインストールおよびアップグレードのシナリオ	9
登録の失敗	9
テスト接続の失敗	10
SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能の接続の失敗	10
SCVMM R2 のアップデート後のコンソール拡張機能へのアクセスエラー	10
OMIMSSC アプライアンスに IP アドレスが割り当てられていない	10
OMIMSSC コンソール拡張機能のインポート中に SCVMM がクラッシュ	11
OMIMSSC コンソール拡張機能へのログインに失敗	11
アップデート中の SC2012 VMM SP1 のクラッシュ	11
5 OMIMSSC 管理ポータル	12
Mozilla Firefox ブラウザから OMIMSSC 管理ポータルへのアクセス時のエラーメッセージ	12
OMIMSSC 管理ポータルに Dell EMC ロゴが表示されない	12
6 OMIMSSC での検出、同期、インベントリのシナリオ	13
サーバの検出の失敗	13
検出されるサーバがすべての Dell Lifecycle Controller サーバコレクションに追加されていない	13
正しくない資格情報によるサーバ検出の失敗	13
サーバ検出後の不正な VRTX シャーシグループの作成	13
ホスト サーバーは登録済み SCCM と同期できない	14
空のクラスターアップデートグループが自動検出または同期化中に削除されない	14
再検出されたサーバでのメンテナンス関連タスクの実行に失敗	14
7 OMIMSSC での一般的なシナリオ	15
CIFS 共有へのホスト名を使用したアクセスの失敗	15
コンソール拡張機能でのジョブおよびログページの表示の失敗	15
管理下システムでのオペレーションの失敗	15
OMIMSSC のオンラインヘルプの起動の失敗	15
8 OMIMSSC でのファームウェアアップデートのシナリオ	16
アップデートソースの作成の失敗	16
システムデフォルトアップデートソースを使用した FTP への接続の失敗	16
ローカルアップデートソースのテスト接続に失敗	16
DRM アップデートソースの作成に失敗	16
ファームウェアアップデート中におけるリポジトリの作成の失敗	16
OMIMSSC のアップグレードまたは移行後に比較レポートを表示できない	17
クラスターのファームウェアアップデートに失敗	17

満杯のジョブキューによるファームウェアアップデートの失敗.....	17
DRM アップデートソースの使用時のファームウェアアップデートの失敗.....	18
一部のコンポーネントで選択とは無関係にファームウェアアップデートが行われる.....	18
ファームウェアアップデート後に最新のインベントリ情報が表示されない.....	18
カスタムアップデートグループの削除の失敗.....	18
WinPE イメージのアップデートに失敗.....	19
第 11 世代サーバーのファームウェアアップデートの失敗.....	19
頻度設定の変更後にポーリングと通知ベルの色が変わる.....	19
9 OMIMSSC でのオペレーティングシステム導入シナリオ.....	20
オペレーティングシステム導入の一般的なシナリオ.....	20
運用テンプレートの導入の失敗.....	20
運用テンプレートの保存に失敗.....	20
SCCM ユーザー用のオペレーティングシステム導入シナリオ.....	20
導入オプションがタスクシーケンスに表示されない.....	20
SCCM の Managed Lifecycle Controller Lifecycle Controller ESXi コレクションへのサーバーの追加に失敗.....	21
SCVMM ユーザー用のオペレーティングシステム導入シナリオ.....	21
LC またはファイアウォール保護によるハイパーバイザー導入の失敗.....	21
ライブラリ共有内で維持されているドライバファイルを起因とするハイパーバイザー導入の失敗.....	21
Active Directory へのサーバー追加中の SCVMM エラー 21119.....	22
Active Directory 使用時の第 11 世代 PowerEdge ブレードサーバーに対するハイパーバイザー導入の失敗..	22
LC ドライバインジェクションの失敗.....	22
SCVMM ユーザー用の S2D クラスタ作成シナリオ.....	22
S2D クラスタの正常性ステータスが不明.....	22
10 OMIMSSC でのサーバープロファイルのシナリオ.....	23
サーバープロファイルのエクスポートの失敗.....	23
2 時間後にサーバープロファイルのインポートジョブがタイムアウト.....	23
11 OMIMSSC での LC ログシナリオ.....	24
LC ログの .CSV 形式でのエクスポートの失敗.....	24
LC ログファイルのオープンに失敗.....	24
テスト接続の失敗.....	24
12 Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス.....	25
デルへのお問い合わせ.....	25

OMIMSSC 管理に必要なリソース

このガイドでは OMIMSSC で発生する問題について、必要な権限の確認および、その解決法について解説します。

OMIMSSC で発生する問題のトラブルシューティングでは、次のリソースが必要です。

- ・ OMIMSSC アプライアンスにログインして、さまざまな操作を実行するのに必要な読み取り専用ユーザーのアカウントの詳細。
OMIMSSC アプライアンス VM から読み取り専用ユーザーとしてログインする場合、ユーザー名は `readonly` と入力し、パスワードは OMIMSSC アプライアンス VM へのログインに使用したものと同一ものを入力します。
 - ・ 次のような高レベルで包括的なエラーの詳細が記入されたログファイル：
 - ・ アクティビティログ - OMIMSSC で開始されたジョブに関するユーザー固有の情報と高レベルの情報、および OMIMSSC で実行されたジョブのステータスが含まれています。アクティビティログを表示させるには、OMIMSSC コンソール拡張機能の **ジョブおよびログ** ページに移動します。
 - ・ コンプリートログ - 管理者関連のログおよび、OMIMSSC のシナリオに固有な各種の詳細なログが含まれています。コンプリートログを表示させるには、**OMIMSSC 管理ポータル**の **ジョブおよびログ** ページに移動し、**設定**、**ログ**の順に選択します。
 - ・ LC ログ - サーバレベルの情報および、OMIMSSC で実行された操作に関する詳細なエラーメッセージが含まれています。LC ログをダウンロードして表示させる方法については、『*Dell EMC OpenManage Integration for Microsoft System Center for System Center Configuration Manager and System Center Virtual Machine Manager User's Guide*』(System Center Virtual Machine Manager および System Center Configuration Manager 用 Microsoft System Center 向け Dell EMC OpenManage Integration ユーザーズガイド) を参照してください。
- ① **メモ:** iDRAC または **OpenManage Enterprise Module (OME-Modular)** ページから個々のデバイスをトラブルシューティングするには、**OMIMSSC** を起動して、**設定と導入** ページをクリックし、それぞれのビューを起動してデバイスの **IP URL** をクリックします。
- ① **メモ:** **SCVMM** サーバーの管理者のユーザーは、**SCVMM** のサービスアカウントにしないでください。
- ① **メモ:** **SC2012 VMM SP1** から **SC2012 VMM R2** にアップグレードしている場合は、**Windows PowerShell 4.0** へのアップグレードが必要です。

SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能の許可の検証

OMIMSSC のインストール後、登録ユーザーに次の権限があることを確認します。

1. OMIMSSC がインストールされているシステムで、<Configuration Manager Admin Console Install Dir>\XmlStorage\Extensions\DLCPugin フォルダへの **書き込み** 許可を、PowerShell コマンドを使用して付与します。
OMIMSSC コンポーネントをインストールする前に、サイトサーバおよび SMS プロバイダーサーバで次の前提条件を満たすようにします。
 - a) PowerShell で、PSRemoting コマンドを実行します。
PSRemoting コマンドが無効化されている場合は、次のコマンドを使用して PSRemoting コマンドを有効化します。
 1. コマンド Enable-PSRemoting を実行します。
 2. 確認メッセージで Y を入力します。
 - b) PowerShell で、Get-ExecutionPolicy コマンドを実行します。
ポリシーが RemoteSigned に設定されていない場合は、次のコマンドを使用して RemoteSigned に設定します。
 1. コマンド Set-ExecutionPolicy RemoteSigned を実行します。
 2. 確認メッセージで Y を入力します。
2. Windows Management Instrumentation (WMI) へのユーザーアクセスを設定します。詳細については、「[WMI へのユーザーアクセスの設定](#)」を参照してください。
3. 受信トレイフォルダに、ファイルを書き込むための共有およびフォルダ許可を付与します。
DDR 受信箱にファイルを書き込むための共有およびフォルダ許可を付与するには、次の手順を実行します。
 - a) Configuration Manager コンソールの **管理** で、**SMS_<サイトコード>** 共有に書き込みを行うためのユーザー許可を付与します。
 - b) **ファイルエクスプローラ**を使用して、共有場所の **SMS_<サイトコード>** 共有に移動し、次に ddm.box フォルダに移動します。次のフォルダのドメインユーザーにフルコントロール権限を付与します。
 - ・ **SMS_<サイトコード>**
 - ・ 受信トレイ
 - ・ ddm.box

トピック：

- ・ [WMI へのユーザーアクセスの設定](#)

WMI へのユーザーアクセスの設定

WMI へユーザーがリモートでアクセスできるように設定するには、次の手順を実行します。

-  **メモ:** システムのファイアウォールが **WMI 接続** をブロックしないことを確認します。
1. Distributed Component Object Model (DCOM) にリモートでアクセスするには、登録された SCCM ユーザーに権限を付与します。
DCOM 用のユーザー許可を付与するには、次の手順を実行します。
 - a) dcomcnfg.exe を起動します。
 - b) **コンポーネントサービス** コンソールの左ペインで **コンピュータ** を展開し、**マイコンピュータ** を右クリックして **プロパティ** を選択します。
 - c) **COM セキュリティ** で次の手順を実行します。
 - ・ **アクセス許可** で **制限の編集** をクリックし、**リモートアクセス** を選択します。
 - ・ **起動とアクティブ化のアクセス許可** で **制限の編集** をクリックし、**ローカルからの起動、リモートからの起動、およびリモートからのアクティブ化** を選択します。
 2. DCOM Config Windows Management and Instrumentation (WMI) コンポーネントにアクセスするには、登録ユーザーにユーザー権限を付与します。

DCOM Config WMI 用のユーザー許可を付与するには、次の手順を実行します。

- a) dcomcnfg.exe を起動します。
- b) **マイコンピュータ > DCOM の構成** の順に展開します。
- c) **Windows Management and Integration** を右クリックして、**プロパティ** を選択します。
- d) **セキュリティ** タブの **起動とアクティブ化のアクセス許可** で **編集** をクリックし、**リモートからの起動** および **リモートからのアクティブ化** の許可を選択します。

3. 名前空間セキュリティを設定して、権限を付与します。

名前空間セキュリティを設定し、アクセス許可を付与するには、次の手順を実行します。

- a) wimimgmt.msc を起動します。
- b) **WMI コントロール** ペインで、**WMI コントロール** を右クリックし、**プロパティ** を選択してから **セキュリティ** を選択します。
- c) ROOT\SMS Namespace に移動します。
- d) **メソッドの実行、プロバイダーによる書き込み、アカウントの有効化、リモートの有効化の許可** を選択します。
- e) Root\cimv2\DLCI に移動します。
- f) **メソッドの実行、プロバイダーによる書き込み、アカウントの有効化、リモートの有効化の許可** を選択します。
または、Configuration Manager ユーザーを **SMS_Admin** グループのメンバーにして、このグループの既存の許可に **リモートの有効化** を付与することもできます。

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能の PowerShell 許可の検証

PSRemoting ステータスが有効であり、ExecutionPolicy が RemoteSigned に設定されているかを確認します。ステータスが異なる場合は、PowerShell で次の手順を実行します。

a) PowerShell で、PSRemoting コマンドを実行します。

PSRemoting コマンドが無効化されている場合は、次のコマンドを使用して PSRemoting コマンドを有効化します。

1. コマンド `Enable-PSRemoting` を実行します。
2. 確認メッセージで `Y` を入力します。

b) PowerShell で、`Get-ExecutionPolicy` コマンドを実行します。

ポリシーが RemoteSigned に設定されていない場合は、次のコマンドを使用して RemoteSigned に設定します。

1. コマンド `Set-ExecutionPolicy RemoteSigned` を実行します。
2. 確認メッセージで `Y` を入力します。

OMIMSSC でのインストールおよびアップグレードのシナリオ

ここでは、OMIMSSC のインストールおよびアップグレードに関するすべてのトラブルシューティング情報について説明します。

OMIMSSC アプライアンス VM 設定の確認

OMIMSSC アプライアンス VM が適切に設定されていることを検証するには、OMIMSSC アプライアンス VM を選択し、右クリックして **設定** をクリックし、次のタスクを実行します。

1. OMIMSSC アプライアンスのメモリ割り当てが、『*Dell EMC OpenManage Integration for Microsoft System Center Version 7.1 for System Center Configuration Manager and System Center Virtual Machine Manager Installation Guide*』(System Center Virtual Machine Manager および System Center Configuration Manager 用 Microsoft System Center 向け Dell EMC OpenManage Integration バージョン 7.1 インストールガイド) の「**一般的な要件**」に記載されている要件に従っているかを確認します。足りない場合は、**スタートアップ RAM** にメモリを増設し、**適用** をクリックします。
2. プロセッサ数が、『*Dell EMC OpenManage Integration for Microsoft System Center Version 7.1 for System Center Configuration Manager and System Center Virtual Machine Manager Installation Guide*』(System Center Virtual Machine Manager および System Center Configuration Manager 用 Microsoft System Center 向け Dell EMC OpenManage Integration バージョン 7.1 インストールガイド) の「**一般的な要件**」に記載されている要件に従っていることを確認します。要件を満たしていない場合は、**プロセッサ数** の **仮想プロセッサ数** にプロセッサ数を指定します。
3. IDE コントローラの **仮想ハードディスク** を確認します。これには、**IDE コントローラ 0 > ハードドライブ** で **OMIMSSC - v7** ファイルを参照している **仮想ハードディスク** を確認するか、**参照** をクリックして VHD ファイルが解凍された場所を開き、**OMIMSSC - v7** ファイルを選択して **適用** をクリックします。
4. **ネットワークアダプタ > 仮想スイッチ** で物理 NIC カードに接続されていることを確認して、接続されていなければ NIC カードを設定してください。**仮想スイッチ** ドロップダウンメニューで適切な NIC カードを選択して、**適用** をクリックします。

選択した仮想ハードディスクで OMIMSSC アプライアンス用に新しく作成した仮想マシンが、カーネルパニックの例外で起動に失敗した場合は、仮想マシン設定を編集して、問題の仮想マシン用の動的メモリオプションを有効にします。仮想マシン用の動的メモリオプションの有効化は、次の手順で行えます。

1. OMIMSSC アプライアンス VM を右クリックして、**設定**、**メモリ** の順にクリックします。
2. **動的メモリ** で、**ダイナミックメモリを有効にする** チェックボックスを選択して、詳細を指定します。

トピック：

- ・ [登録の失敗](#)
- ・ [テスト接続の失敗](#)
- ・ [SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能の接続の失敗](#)
- ・ [SCVMM R2 のアップデート後のコンソール拡張機能へのアクセスエラー](#)
- ・ [OMIMSSC アプライアンスに IP アドレスが割り当てられていない](#)
- ・ [OMIMSSC コンソール拡張機能のインポート中に SCVMM がクラッシュ](#)
- ・ [OMIMSSC コンソール拡張機能へのログインに失敗](#)
- ・ [アップデート中の SC2012 VMM SP1 のクラッシュ](#)

登録の失敗

テスト接続または登録に失敗した場合に、エラーメッセージが表示されます。

この問題を回避するには、次の手順を実行します。

- ・ OMIMSSC アプライアンス VM に読み取り専用ユーザーとしてログインし、OMIMSSC アプライアンスから登録された SCCM または SCVMM サーバ FQDN に対して ping を実行します。応答があった場合、しばらく待ってから登録を続行します。

OMIMSSC アプライアンス VM を読み取り専用ユーザーとして起動する場合、ユーザー名は `readonly` と入力し、パスワードは OMIMSSC アプライアンス VM へのログインに使用したものと同一ものを入力します。

- ・ SCCM または SCVMM サーバが実行されていることを確認します。

- ・ コンソールの登録に使用する Microsoft アカウントは、System Center の管理者または委任管理であり、同じく System Center サーバのローカル管理者である必要があります。
- ・ SCVMM ユーザー専用：
 - ・ SCVMM サーバが他の OMIMSSC アプライアンスに登録されていないことを確認します。同じ SCVMM サーバを OMIMSSC アプライアンスに登録する場合は、**OMIMSSC 登録プロファイル**のアプリケーションプロファイルを SCVMM サーバから削除します。
 - ・ SCVMM のロールアップがアップデート済みの場合、レジストリ (HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft System Center Virtual Machine Manager AdministratorConsole\Settings) の SCVMM コンソールの Indigo TCP ポート番号にチェックを入れます。ポート番号は、SCVMM コンソールの登録に使用されたものと同じものにする必要があります。デフォルトでは 8100 です。

テスト接続の失敗

ユーザー名は同じだが、パスワードはドメインユーザーアカウントとローカルユーザーアカウントとで異なる場合、Microsoft コンソールと OMIMSSC アプライアンス間の接続テストに失敗します。

たとえば、ドメインユーザーアカウントは domain\user1 で、そのパスワードは pwd1 だとします。そしてローカルユーザーアカウントは user1 で、そのパスワードは Pwd2 だとします。上記のドメインユーザーアカウントで登録しようとすると、テスト接続に失敗します。

この問題を回避するには、ドメインユーザーとローカルユーザーのアカウントで異なるユーザー名を使用するか、あるいは OMIMSSC アプライアンスでの Microsoft コンソール登録時に単一のユーザーアカウントをローカルユーザーとして使用します。

SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能の接続の失敗

SCVMM 環境で OMIMSSC コンソール拡張機能を登録およびインストールした後、OMIMSSC を起動しようとする、「Connection to server failed」というエラーが表示されます。

この問題を回避するには、次の手順を実行します。

1. OMIMSSC を起動させる時に、SCVMM コンソールで OMIMSSC アプライアンス IP と FQDN をローカル イントラネットに追加します。
2. OMIMSSC アプライアンスの IP と FQDN を DNS の **前方参照ゾーン** および **逆引き参照ゾーン** に追加します。
3. より詳しく調べるには、C:\ProgramData\VMMLogs\AdminConsole ファイルにエラーメッセージがないか確認します。

SCVMM R2 のアップデート後のコンソール拡張機能へのアクセスエラー

SC2012 R2 VMM 用アップデートロールアップの適用後に、インストール済みの OMIMSSC コンソールを開こうとすると、SCVMM によってセキュリティ上の理由によるエラーが表示され、OMIMSSC にアクセスできません。

回避策として、次の手順を実行します。

1. デフォルトパスにあるフォルダ C:\Program Files\Microsoft System Center 2012 R2\Virtual Machine Manager\Bin\AddInPipeline\AddIns\<username> を削除します。
2. SCVMM を再起動させます。
3. コンソール拡張機能を削除してから、『System Center Configuration Manager および System Center Virtual Machine Manager 用 Microsoft System Center 向け Dell EMC OpenManage Integration インストールガイド』の「SCVMM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能のインポート」の項での説明に従って、コンソール拡張機能をインポートします。

OMIMSSC アプライアンスに IP アドレスが割り当てられていない

OMIMSSC アプライアンス VM の作成および起動後に、OMIMSSC アプライアンスの IP アドレスが未割り当てとなっているか表示されません。

この問題を回避するには、仮想スイッチが物理スイッチにマップされているかを確認し、正しく設定されている場合は OMIMSSC アプライアンスに接続します。

OMIMSSC コンソール拡張機能のインポート中に SCVMM がクラッシュ

OMIMSSC コンソール拡張機能をインポートすると、SC2016 VMM RTM ビルド 4.0.1662.0 Administrator コンソールがクラッシュすることがあります。

この問題を回避するには、support.microsoft.com/kb/4094925 にある KB の記事 4094925 を参照して SCVMM をアップグレードしてから、OMIMSSC コンソール拡張機能をインポートします。

OMIMSSC コンソール拡張機能へのログインに失敗

Microsoft コンソールへのログインに使用された異なる資格情報によって OMIMSSC コンソール拡張機能にログインした後、ログインアクティビティが失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。Username or Password is incorrect

この問題を回避するには、OMIMSSC コンソール拡張機能へのログインに使用された資格情報を用いて、Microsoft コンソールへのログインおよび起動をします。これは 1 回限りのアクティビティです。

アップデート中の SC2012 VMM SP1 のクラッシュ

SC2012 VMM SP1 へのアップグレード後に OMIMSSC コンソール拡張機能を SC2012 VMM UR5 以降にインポートすると、SCVMM コンソールがクラッシュする場合があります。

この問題に関する情報と解決法については、support.microsoft.com/kb/2785682 の URL にあるナレッジベースの 5 番目の記事を参照してください。

この問題を回避するには、インストールされているアップデートロールアップのすべてのバージョンに対して、SCVMM をアップデートします。

OMIMSSC 管理ポータル のシナリオ

Mozilla Firefox ブラウザから OMIMSSC 管理ポータルへのアクセス時のエラーメッセージ

Mozilla Firefox ブラウザを使用して OMIMSSC 管理ポータルにアクセスすると、次の警告メッセージが表示されます。“Secure Connection Failed”。

これを回避するには、ブラウザの admin portal の前回のエントリから作成された証明書を削除します。Mozilla Firefox ブラウザから証明書を削除する方法については、support.mozilla.org を参照してください。

OMIMSSC 管理ポータルに Dell EMC ロゴが表示されない

Windows 2016 のデフォルト IE ブラウザで OMIMSSC 管理ポータルが起動される場合、管理ポータルでの Dell EMC ロゴの表示がされません。

回避策として、次のいずれかを行ってください。

- ・ IE ブラウザを最新バージョンにアップグレードします。
- ・ ブラウザの閲覧履歴を削除してから、OMIMSSC 管理ポータルの URL をブラウザのお気に入りリストに追加します。

OMIMSSC での検出、同期、インベントリのシナリオ

サーバの検出の失敗

1つの OMIMSSC アプライアンスに複数の Microsoft コンソールが登録されている場合、サーバ検出を試みて到達不可能な SCCM コンソールがあると、サーバ検出ジョブは失敗します。

この問題を回避するには、到達不能な SCCM コンソールの登録を解除するか、エラーを修正して SCCM コンソールが OMIMSSC アプライアンスからアクセス可能になるようにします。

検出されるサーバがすべての Dell Lifecycle Controller サーバ コレクションに追加されていない

SCCM コンソール拡張機能用の OMIMSSC で検出されるサーバが、すべての **Dell Lifecycle Controller** サーバ コレクションに追加されていないことがあります。

この問題を回避するには、すべての **Dell Lifecycle Controller** サーバ コレクションを削除してからサーバを検出します。SCCM 中にコレクションが自動的に作成され、このグループにサーバが追加されます。

正しくない資格情報によるサーバ検出の失敗

検出時に誤った資格情報を入力してしまった場合、iDRAC のバージョンに応じて次の解決策を使用できます。

- ・ iDRAC バージョン 2.10.10.10 以降の第 12 世代の PowerEdge サーバの検出時、誤った詳細が資格情報プロファイルで提供されている場合、そのサーバの検出は次の動作により失敗します。
 - ・ 初回試行の場合、サーバの IP アドレスはブロックされません。
 - ・ 2 回目の試行、サーバの IP アドレスが 30 秒間ブロックされます。
 - ・ 3 回目以降の試行では、サーバの IP アドレスが 60 秒間ブロックされます。
- ・ IP アドレスのブロックが解除されたら、正しい資格情報プロファイルの詳細情報を使用してサーバ検出を再試行できます。
- ・ 2.10.10.10 より前のバージョンの iDRAC を搭載した第 11 世代または第 12 世代の PowerEdge サーバを検出しているとき、誤った資格情報プロファイルの詳細情報によりサーバ検出の試行が失敗した場合は、正しい資格情報プロファイルの詳細情報を使用してサーバを再検出します。
- ・ 2.10.10.10 より前のバージョンの iDRAC では、IP アドレスのブロックは設定可能です。詳細については、**Dell.com/ idracmanuals** にある iDRAC のマニュアルを参照してください。要件に基づいて、IP アドレスのブロックを無効にすることもできます。また、iDRAC.IPBlocking.BlockEnable 機能が iDRAC で有効になっているかを確認することもできます。
- ・ サーバが検出され、アプライアンスに追加された後にデフォルトの iDRAC 資格情報プロファイルが変更された場合、サーバ上ではアクティビティを実行できません。サーバを利用するには、新しい資格情報プロファイルを使用してサーバを再検出します。

サーバ検出後の不正な VRTX シャーシグループの作成

別のシャーシに存在していたモジュラーサーバを VRTX シャーシに追加し、それが OMIMSSC で検出された場合、そのモジュラーサーバで以前のシャーシサービスタグ情報が引き続き使用されます。そのため、最新のシャーシ情報ではなく古いシャーシ情報が保持された VRTX シャーシグループがアプライアンスに作成されます。

回避策として、次の手順を実行します。

1. CSIOR を有効にし、新しく追加されたモジュラーサーバ上の iDRAC をリセットします。

2. VRTX シャーシグループ内のすべてのサーバーを手動で削除し、それらのサーバーを再検出します。

ホスト サーバーは登録済み SCCM と同期できない

OMIMSSC コンソール拡張を登録済み SCCM と同期している間、サーバーは同期ジョブにサブタスクとしてリストされないため、同期されません。

この問題を回避するには、SCCM コンソールを「管理者権限で実行」で起動し、サーバーの帯域外設定をアップデートします。次に、OMIMSSC コンソール拡張機能を登録済み SCCM と同期します。

詳細については、『System Center Configuration Manager および System Center Virtual Machine Manager 用 OpenManage Integration for Microsoft System Center バージョン 7.2 ユーザーズガイド』の「登録済み Microsoft コンソールとの同期」トピックを参照してください。

空のクラスタアップデートグループが自動検出または同期化中に削除されない

クラスタが OMIMSSC で検出されると、クラスタアップデートグループがメンテナンスセンター内に作成され、すべてのサーバがそのクラスタアップデートグループ内にリストされます。その後、SCVMM を介してすべてのサーバをこのクラスタから削除して自動検出する場合、または SCVMM で同期化する場合でも、その空のクラスタアップデートグループはメンテナンスセンターから削除されません。

回避策として、空のサーバーグループを削除するために、サーバーを再検出します。

再検出されたサーバでのメンテナンス関連タスクの実行に失敗

OMIMSSC から特定のサーバまたはアップデートグループ内のすべてのサーバを削除して再検出した場合、これらのサーバで、ファームウェアの更新、LC ログのエクスポートとインポート、サーバプロファイルのエクスポートとインポートなど、その他の操作を実行することができません。

この問題を回避するには、削除されたサーバーまたはサーバー群を再検出した後に、[サーバービュー]にある[運用テンプレートの導入]機能を使用してファームウェアアップデートを実行し、他のメンテナンスシナリオでは iDRAC を使用します。

OMIMSSC での一般的なシナリオ

CIFS 共有へのホスト名を使用したアクセスの失敗

モジュラーサーバによる CIFS 共有へのアクセスが、OMIMSSC でのどのジョブ実行用のホスト名を使用しても行えません。この問題を回避するには、ホスト名ではなく CIFS 共有を持つサーバの IP アドレスを指定します。

コンソール拡張機能での ジョブおよびログ ページの表示の失敗

ジョブおよびログセンター ページが、OMIMSSC コンソール拡張機能に表示されません。この問題を回避するには、コンソールを再登録してから、ジョブおよびログ ページを起動します。

管理下システムでのオペレーションの失敗

Transport Layer Security (TLS) のバージョンが原因となって、OMIMSSC のすべての機能が管理下システムで期待どおりに動作しません。

iDRAC ファームウェアバージョン 2.40.40.40 以降を使用している場合は、Transport Layer Security (TLS) バージョン 1.1 以降がデフォルトで有効に設定されています。コンソール拡張機能のインストール前にアップデートをインストールし、[Support.microsoft.com/en-us/kb/3140245](https://support.microsoft.com/en-us/kb/3140245) にある KB 記事を参照して TLS 1.1 以降を有効にします。TLS 1.1 以降のサポートを SCVMM サーバおよび SCVMM コンソールで有効にして、OMIMSSC が所定の作動を確認することが推奨されます。iDRAC の詳細については、Dell.com/idracmanuals を参照してください。

OMIMSSC のオンラインヘルプの起動の失敗

Windows 2012 R2 オペレーティングシステムを使用している場合、コンテキスト依存のオンラインヘルプコンテンツが起動し、エラーメッセージが表示されます。

解決策としては、最新の KB 記事を参照してオペレーティングシステムを更新し、オンラインヘルプコンテンツを表示させます。

OMIMSSC でのファームウェアアップデートのシナリオ

アップデートソースの作成の失敗

アプライアンスの Domain Name System (DNS) ネットワーク設定が変更されると、HTTP または FTP タイプのアップデートソースの作成に失敗します。

この問題を回避するには、アプライアンスを再起動し、その後に、HTTP または FTP タイプのアップデートソースを作成します。

システムデフォルトアップデートソースを使用した FTP への接続の失敗

OMIMSSC をセットアップ、設定、アップグレード、または移行した後、デフォルトのアップデートソース **Dell Online カタログ** を用いた FTP サイトへのアクセスを試行すると、プロキシ資格情報を必要とする場合にアクセスに失敗することがあります。

この問題を回避して、アップデートソースとして **Dell Online カタログ** を用いた FTP サイトへのアクセスを行うには、アップデートソースを編集してプロキシ資格情報を追加します。

ローカルアップデートソースのテスト接続に失敗

ローカルアップデートソースの詳細を提供した後、必要なファイルにアクセスできないため、テスト接続が失敗することがあります。

この問題を回避するには、catalog.gz ファイルが次のフォルダ構造に存在することを確認します。

- ・ ローカル HTTP アップデートソース用 : http:\\IP address\\catalog\\catalog.gz
- ・ ローカル FTP アップデートソース用 : ftp:\\IP address\\catalog\\catalog.gz
- ・ ローカル DRM アップデートソース用 : \\IP address\\catalog\\<catalogfile>.gz

DRM アップデートソースの作成に失敗

Windows 10 オペレーティングシステム (OS) 上で実行されている管理サーバで DRM アップデートソースの作成に失敗し、次のエラーメッセージが表示されることがあります。Failed to reach location of update source. Please try again with correct location and/or credentials.

次のエラーメッセージが表示された場合は、OMIMSSC 管理ポータル の **dlciappliance_main** ログを参照してください。Unix command failed SmbException: com.dell.pg.tetris.business.samba.smbclient.SmbException: session setup failed: NT_STATUS_IO_TIMEOUT where EnableSMB1Protocol = false.

この問題を回避するには、support.microsoft.com/en-us/help/4034314 にある KB 記事を参照してください。

ファームウェアアップデート中におけるリポジトリの作成の失敗

アップデートソース作成中に指定された資格情報が正しくないか、OMIMSSC アプライアンスがアップデートソースにアクセスできないことが原因で、ファームウェアアップデート中にリポジトリを作成できない可能性があります。

この問題を回避するには、OMIMSSC アプライアンスのホスト先からアップデートソースにアクセス可能であることを確認し、アップデートソースの作成時に正しい資格情報を提供します。

OMIMSSC のアップグレードまたは移行後に比較レポートを表示できない

最新バージョンの OMIMSSC にアップグレードした後、ftp.dell.com または downloads.dell.com への接続に失敗した場合は、デフォルトの Dell Online FTP または Dell HTTP アップデートソースでカタログファイルをダウンロードできません。したがって、比較レポートは使用できません。

この問題を回避してデフォルトアップデートソースの比較レポートを表示させるには、デフォルトの Dell オンライン FTP、または Dell HTTP アップデートソースを編集し、プロキシ資格情報を作成してから、**アップデートソースの選択** ドロップダウンメニューからアップデートソースを選択します。アップデートソースの編集の詳細については、『System Center Configuration Manager および System Center Virtual Machine Manager 用 Microsoft System Center 向け Dell EMC OpenManage Integration ユーザーズガイド』の「アップデートソースの変更」の項を参照してください。

クラスタのファームウェアアップデートに失敗

OMIMSSC にクラスタのファームウェアのアップデートジョブが送信された後、何らかの理由によりクラスタがアップデートされず、**アクティビティログ**に次のエラーメッセージが表示されます。

```
Cluster Aware Update failed for cluster group <cluster group name>.
```

```
Failed to perform Cluster Aware Update for cluster group <cluster group name>.
```

メモ: Cluster Aware Update アクションは、Cluster Aware Update レポートが保存される: \\<SCVMM CIFS share>\OMIMSSC_UPDATE\reports フォルダーに記録されます。\\SCVMM CIFS share\OMIMSSC_UPDATE\reports\log フォルダーには、さらに各ノードの Dell EMC System Update (DSU) プラグイン ログが含まれます。拡張スクリプト ログは、C:\Window\Temp にあります。この場所には、S2D クラスタ用の各クラスター ノードにある precau.log ファイルと postcau.log ファイルが含まれています。

クラスタのファームウェアアップデートに失敗する理由および、それらの回避策には、次のものがあります。

- 必要な DUP およびカタログファイルが、選択したローカルアップデートソースに存在しない場合。
この問題を回避するには、すべての必要な DUP およびカタログファイルがリポジトリで使用できることを確認してから、クラスタのファームウェアをアップデートします。
- クラスタグループが応答しなくなる、あるいは進行中のジョブが原因となってファームウェアアップデートジョブが CAU でキャンセルされるなどの場合、DUP がダウンロードされ、クラスタグループに属す各サーバクラスターノードに配置されます。
この問題を回避するには、Dell フォルダ内のすべてのファイルを削除してから、クラスタファームウェアをアップデートします。
- Lifecycle Controller (LC) が他の操作でビジーとなった場合、特定のクラスターノードでのファームウェアアップデートタスクは失敗します。アップデート失敗の原因が LC がビジー状態のためかを確認するには、C:\dell\suu\invcolError.log のパスにあるクラスタの各ノードで次のエラーメッセージを確認します。

```
Inventory Failure: IPMI driver is disabled. Please enable or load the driver and then reboot the system.
```

この問題を回避するには、サーバをシャットダウンし、電源ケーブルを取り外してから、サーバを再起動させます。再起動後、クラスタのファームウェアをアップデートします。

満杯のジョブキューによるファームウェアアップデートの失敗

OMIMSSC から iDRAC に送信されたファームウェアアップデートジョブが失敗し、OMIMSSC メインログに次のエラーが表示されます。JobQueue Exceeds the size limit. Delete unwanted JobID(s).

この問題を回避するには、iDRAC 内の完了済みジョブを手動で削除し、ファームウェアアップデートジョブを再試行します。iDRAC 内のジョブを削除する方法の詳細については、dell.com/support/home にある iDRAC のマニュアルを参照してください。

DRM アップデートソースの使用時のファームウェアアップデートの失敗

共有フォルダへのアクセス権が不十分な場合に DRM アップデートソースを使用すると、ファームウェアアップデートジョブが失敗する場合があります。DRM アップデートソースの作成中に提供された Windows 資格情報プロファイルがドメイン管理者グループまたはローカル管理者グループの一部ではない場合、「Local cache creation failure」というエラーメッセージが表示されます。

この問題を回避するには、次の手順を実行します。

1. DRM からリポジトリを作成した後、フォルダを右クリックし、**セキュリティ** タブをクリックして、**詳細設定** をクリックします。
2. **継承を有効にする** をクリックして、**子オブジェクトのアクセス許可エントリすべてを、このオブジェクトからの継承可能なアクセス許可エントリで置き換える** オプションを選択し、**すべてのユーザー** に読み取り / 書き込みアクセス許可を与えてフォルダを共有します。

一部のコンポーネントで選択とは無関係にファームウェアアップデートが行われる

ファームウェアアップデート中に、同一サーバの同じコンポーネントがアップデートされる現象が、該当する各サーバでのコンポーネント選択とは無関係に発生します。この現象は、iDRAC の Enterprise ライセンスを持つ第 12 および第 13 世代の PowerEdge サーバで発生します。

回避策として、次のいずれかを行ってください。

- ・ 最初に、同一サーバにある共通コンポーネント用のアップデートを適用してから、次に個々のサーバ上で特定コンポーネント用のアップデートを個別に適用します。
- ・ ファームウェアアップデートに対応するため、停止時間が計画されているステージングされたアップデートを実行してください。

ファームウェアアップデート後に最新のインベントリ情報が表示されない

第 11 世代 PowerEdge サーバのファームウェアバージョンの正常な更新後に、最新のインベントリ情報が表示されません。

OMIMSSC でのインベントリの更新は、ファームウェアアップデートジョブの完了直後に実行されるアクティビティです。ファームウェアアップデートが完了した時点で PowerEdge サーバの CSIOR アクティビティが完了前であると、表示されるファームウェアインベントリ情報は従来のままになります。

この問題を回避するには、PowerEdge サーバで CSIOR アクティビティが完了していることを確認してから、OMIMSSC でファームウェアインベントリを更新させます。また、エージェントフリーのステージングされたアップデートを適用した後は、サーバの再起動も行うようにしてください。インベントリ更新の詳細については、『*Configuration Manager および Virtual Machine Manager 用 Microsoft System Center 向け OpenManage Integration ユーザーズガイド*』の「ファームウェアインベントリの表示と更新」の項を参照してください。

CSIOR の詳細については、dell.com/support/home で入手可能な『*Dell Lifecycle Controller GUI User's Guide*』（Dell Lifecycle Controller GUI ユーザーズガイド）の最新バージョンにあるトラブルシューティングの項を参照してください。

カスタムアップデートグループの削除の失敗

カスタムアップデートグループに属するサーバ上で任意のジョブをスケジュールした後、そのサーバが Microsoft コンソールから削除され、登録された Microsoft コンソールと OMIMSSC を同期させると、そのサーバは、カスタムアップデートグループから削除され、事前定義されたアップデートグループにサーバが移動します。このようなカスタムアップデートグループは、スケジュールされたジョブと関連付けられているため、削除することができません。

この問題を回避するには、スケジュールされているジョブを **ジョブおよびログ** ページから削除し、その後にカスタムアップデートグループを削除します。

WinPE イメージのアップデートに失敗

WinPE イメージをアップデートしようとする、アップデートジョブが失敗し、次のエラーメッセージが表示されることがあります。Remote connection to console failed.

この問題を回避するには、**DISM** コマンドを実行し、以前にマウントされていたすべてのイメージを Microsoft コンソールでクリーンアップして、WinPE イメージのアップデートを再試行します。

第 11 世代サーバーのファームウェアアップデートの失敗

第 11 世代の Dell PowerEdge サーバに適用されるファームウェアアップデートは、iDRAC と LC の互換性のないバージョンのために次のエラーが表示されて失敗する場合があります。WSMan command failed to execute on server with iDRAC IP <IP address>

この問題を回避するには、iDRAC および LC を最新バージョンにアップグレードしてから、ファームウェアアップデートを適用します。次の表は、LC および iDRAC の最新バージョンのリストです。

表 1. LC および iDRAC のバージョン

Lifecycle Controller のバージョン	Integration Dell Remote Access Controller のバージョン
1.7.5.4 以降	- モジュラーサーバの場合：2.90 以降 - モノリシックサーバの場合：3.85 以降

頻度設定の変更後にポーリングと通知ベルの色が変わる

OMIMSSC に管理サーバが検出されない状況下で、ポーリングと通知の頻度オプションを変更すると、カタログに変更がない場合でも、しばらくするとベルの色が黄色に変わります。

この問題を回避するには、管理対象サーバを検出してから、ポーリングと通知の頻度オプションを変更します。

OMIMSSC でのオペレーティングシステム導入シナリオ

オペレーティングシステム導入の一般的なシナリオ

ここでは、オペレーティングシステム導入に関する一般的なすべてのトラブルシューティング情報について説明します。

運用テンプレートの導入の失敗

選択したサーバへの運用テンプレートの導入後、属性や属性値が選択された .CSV ファイルでの適正値に一致していないか、テンプレート設定に起因して iDRAC IP や iDRAC 資格情報が変更されています。iDRAC でのジョブは成功していても、無効な .CSV ファイルに起因して OMIMSSC での当該ジョブのステータスが不成功または失敗として表示されるか、ターゲットサーバでの iDRAC 変更が原因となってジョブ追跡が不可能になっています。

この問題を回避するには、選択した .CSV ファイルに適切な属性と属性値がすべて含まれていること、テンプレート設定によって iDRAC IP や資格情報が変更されていないことを確認します。

運用テンプレートの保存に失敗

運用テンプレートの作成時に、プール値を持つ依存関係がある属性のチェックボックスをオンにしてオフにすると、運用テンプレートを保存できず、次のエラーメッセージが表示されます。

Select atleast one attribte, under the selected components, before creating the Operational Template.

この問題を回避するには、次のいずれかを実行します。

- ・ いずれかのプール値を持つ依存関係がある属性、または同じ依存関係がある属性を選択して、運用テンプレートを保存します。
- ・ 新規の運用テンプレートを作成します。

SCCM ユーザー用のオペレーティングシステム導入シナリオ

ここでは、SCCM コンソールでの OMIMSSC を使用したオペレーティングシステム導入に関連するトラブルシューティング情報について説明します。

導入オプションがタスクシーケンスに表示されない

SCCM 用 OMIMSSC コンソール拡張機能をアンインストールして再インストールした後に、**導入** オプションが既存のタスクシーケンスに表示されません。

この問題を回避するには、編集のためにタスクシーケンスを開き、**適用** オプションを再度有効にして、**OK** をクリックします。**導入** オプションが再度表示されます。

適用 オプションを再度有効にするには、次の手順を実行します。

1. タスクシーケンスを右クリックして、**編集** を選択します。
2. **Windows PE で再起動** を選択します。**説明** セクションで、任意の文字を入力して削除し、変更が保存されないようにします。
3. **[OK]** をクリックします。

これで **適用** オプションが再度有効になります。

SCCM の Managed Lifecycle Controller Lifecycle Controller ESXi コレクションへのサーバの追加に失敗

オペレーティングシステム導入中に DHCP ルックアップが失敗すると、サーバはタイムアウトし、SCCM 中の Managed Dell Lifecycle Controller (ESXi) にサーバが移動されません。

この問題を回避するには、SCCM クライアントサーバをインストールしてから、同期化を実行して、Managed Lifecycle Controller Lifecycle Controller (ESXi) コレクションにサーバを追加します。

SCVMM ユーザー用のオペレーティングシステム導入シナリオ

ここでは、SCVMM コンソールでの OMIMSSC を使用したハイパーバイザー導入に関連するトラブルシューティング情報について説明します。

LC またはファイアウォール保護によるハイパーバイザー導入の失敗

ハイパーバイザー導入に失敗し、アクティビティログに次のエラーメッセージが表示されます。Error New-SCVMHost failed with following error : An out of band operation (SMASH) for the BMC <IP ADDRESS> failed on IDRAC IP : <IP ADDRESS>.

このエラーは、次のいずれかの理由で発生する可能性があります。

- Dell Lifecycle Controller の状態が不良。
解決方法として、iDRAC ユーザーインタフェースにログインして Lifecycle Controller をリセットします。
Lifecycle Controller のリセット後、問題が解決しない場合は、次の代替手段を行います。
- アンチウイルスまたはファイアウォールにより、WINRM コマンドの正常実行が制限されることがあります。
回避策については、support.microsoft.com/kb/961804 にある KB 記事を参照してください。

ライブラリ共有内で維持されているドライバファイルを起因とするハイパーバイザー導入の失敗

ハイパーバイザー導入に失敗し、アクティビティログに次のエラーメッセージが表示されます。

- **Error:** Error while applying Hypervisor Profile to host <IP Address>. Failed with error : For input string: ""
- **Information:** Successfully deleted drivers from library share sttig.<MicrosoftConsoleName>.com for <server uuid>
- **Error:** Deleting staging share (drivers) for <server uuid> failed.

これらのエラーは、VMM コマンドレット GET-SCJOB status が出力した例外と、ライブラリ共有内のドライバファイルが原因で発生することがあります。再試行する前、または別のハイパーバイザー導入を実行する前に、これらのファイルをライブラリ共有から削除する必要があります。

ライブラリ共有からファイルを削除するには、次の手順を実行します。

1. SCVMM コンソールから、ライブラリ > ライブラリサーバの順に選択し、ライブラリサーバとして追加された IG サーバを選択します。
2. ライブラリサーバーで、ライブラリ共有を選択して削除します。
3. ライブラリ共有が削除された後、\\<Integration Gateway server>\LCDriver\ を使用して IG 共有に接続します。
4. ドライバファイルの入ったフォルダを削除します。

その後、ハイパーバイザーが導入可能になります。

Active Directory へのサーバ追加中の SCVMM エラー 21119

Active Directory にサーバーを追加しているとき、次のような SCVMM エラー 21119 が表示されます。「Error 21119: The physical computer with <SMBIOS GUID> did not join Active Directory in time. The computer was expected to join Active Directory using the computer name <host.domain>。」

回避策として、次の手順を実行します。

1. しばらく待ってから、サーバーが Active Directory に追加されたかを確認します。
2. Active Directory にサーバーが追加されていない場合は、Active Directory にサーバーを手動で追加します。
3. SCVMM にサーバーを追加します。
4. SCVMM にサーバが追加されたら、OMIMSSC でサーバを再度検出します。

サーバが **ホスト** タブの下に表示されます。

Active Directory 使用時の第 11 世代 PowerEdge ブレードサーバに対するハイパーバイザー導入の失敗

Active Directory ユーザー資格情報を使用する時に、第 11 世代の PowerEdge ブレードサーバ上でのハイパーバイザー導入に失敗します。第 11 世代 PowerEdge ブレードサーバは、Intelligent Platform Management Interface (IPMI) プロトコルを使用して通信します。ただし、Active Directory セットアップからの資格情報の使用に対しては、IPMI 規格がサポートされていません。

これらのサーバ上でオペレーティングシステムを導入するための回避策として、サポートされている資格情報プロファイルを使用してください。

LC ドライバインジェクションの失敗

SC2012 VMM を使用して OS の導入と LC ドライバインジェクションを行う場合、OS は正常に導入されますが、LC ドライバインジェクションには失敗します。

この問題を解決するには、SCVMM の最新のロールアップを適用します。

SCVMM ユーザー用の S2D クラスタ作成シナリオ

ここでは、SCVMM コンソールでの OMIMSSC を使用した Storage Spaces Direct 作成に関連するトラブルシューティング情報について説明します。

S2D クラスタの正常性ステータスが不明

既存クラスタ中のノードに Storage Spaces Direct クラスタを作成すると、ストレージプールおよびディスク設定に既存クラスタの設定が含まれます。そのため、クラスタストレージプールが作成されないことや、クラスタストレージプールが作成された場合でも正常性ステータスが不明と表示されることがあります。

この問題を回避するには、既存クラスタの詳細情報を含むストレージプールおよびディスク設定をクリアしてから Storage Spaces Direct クラスタを作成します。ストレージプールのクリアの詳細については、Microsoft ドキュメントの「*Storage Spaces Direct の正常性と動作状態のトラブルシューティング*」の項を参照してください。

OMIMSSC でのサーバプロファイルのシナリオ

サーバプロファイルのエクスポートの失敗

サーバプロファイルのエクスポートジョブをスケジュールした後、サーバプロファイルがエクスポートされず、次のエラーメッセージが表示されます。The selectors for the resource are not valid.

この問題を回避するには、iDRAC をリセットしてから、サーバプロファイルのエクスポートジョブをスケジュールします。詳細については、dell.com/support にある iDRAC のマニュアルを参照してください。

2 時間後にサーバプロファイルのインポートジョブがタイムアウト

OMIMSSC でサーバ プロファイルのインポート ジョブを送信した後、2 時間後にそのジョブがタイムアウトします。

この問題を回避するには、次の手順を実行します。

1. サーバを起動し、F2 を押して、**BIOS 設定** 画面に移動します。
2. **セットアップユーティリティ** をクリックし、**その他の設定** を選択します。
3. エラー時に **F1/F2** プロンプト を無効にします。

次の手順を実行した後、サーバプロファイルを再度エクスポートし、同じサーバプロファイルを使用してそのサーバにインポートします。

OMIMSSC での LC ログシナリオ

LC ログの .CSV 形式でのエクスポートの失敗

LC ログファイルを .CSV 形式でダウンロードしようとする、ダウンロードに失敗します。

この問題を回避するには、ローカルのイントラネットサイトでブラウザに OMIMSSC アプライアンスの FQDN を追加します。ローカルイントラネットでの OMIMSSC アプライアンスの追加については、『*System Center Configuration Manager および System Center Virtual Machine Manager 用 Dell EMC OpenManage Integration for Microsoft System Center パージョン 7.1 ユーザーズガイド*』の「LC ログの表示」セクションを参照してください。

LC ログファイルのオープンに失敗

LC ログを収集した後、サーバの LC ログファイルの表示を試行すると、次のエラーメッセージが表示されます。“Failed to perform the requested action. For more information see the activity log”。

この問題を回避するには、iDRAC をリセットしてから、LC ログの収集と表示を行います。iDRAC のリセットに関する詳細については、dell.com/support にある iDRAC のマニュアルを参照してください。

テスト接続の失敗

ユーザー名は同じだが、パスワードはドメインユーザーアカウントとローカルユーザーアカウントとで異なる場合、Microsoft コンソールと OMIMSSC アプライアンス間の接続テストに失敗します。

たとえば、ドメインユーザーアカウントは domain\user1 で、そのパスワードは pwd1 だとします。そしてローカルユーザーアカウントは user1 で、そのパスワードは Pwd2 だとします。上記のドメインユーザーアカウントで登録しようすると、テスト接続に失敗します。

この問題を回避するには、ドメインユーザーとローカルユーザーのアカウントで異なるユーザー名を使用するか、あるいは OMIMSSC アプライアンスでの Microsoft コンソール登録時に単一のユーザーアカウントをローカルユーザーとして使用します。

Dell EMC サポート サイトからのドキュメントへのアクセス

次のリンクを使用して、必要なドキュメントにアクセスします。

- ・ Dell EMC エンタープライズシステム管理のマニュアル — www.dell.com/SoftwareSecurityManuals
- ・ Dell EMC OpenManage マニュアル — www.dell.com/OpenManageManuals
- ・ Dell EMC リモートエンタープライズシステム管理のマニュアル — www.dell.com/esmmanuals
- ・ iDRAC マニュアル — www.dell.com/idracmanuals
- ・ Dell EMC OpenManage Connections エンタープライズシステム管理のマニュアル — www.dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement
- ・ Dell EMC Serviceability Tools マニュアル — www.dell.com/ServiceabilityTools
- ・ 1. www.support.dell.com にアクセスします。
- ・ 2. すべての製品を参照 をクリックします。
- ・ 3. すべての製品 ページで ソフトウェア をクリックして、次の中から必要なリンクをクリックします。
 - ・ 統計
 - ・ クライアントシステム管理
 - ・ エンタープライズアプリケーション
 - ・ エンタープライズシステム管理
 - ・ 公共機関向けソリューション
 - ・ ユーティリティ
 - ・ メインフレーム
 - ・ 保守ツール
 - ・ 仮想化ソリューション
 - ・ オペレーティングシステム
 - ・ サポート
- ・ 4. マニュアルを表示するには、該当する製品をクリックして、該当するバージョンをクリックします。
- ・ 検索エンジンを使用します。
 - ・ 検索 ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。

トピック：

- ・ [デルへのお問い合わせ](#)

デルへのお問い合わせ

- ① **メモ:** お使いのコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、購入時の納品書、出荷伝票、請求書、またはデルの製品カタログで連絡先をご確認ください。

デルでは、オンラインまたは電話によるサポートとサービスのオプションを複数提供しています。サポートやサービスの提供状況は国や製品ごとに異なり、国/地域によってはご利用いただけないサービスもございます。デルのセールス、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

1. Dell.com/support にアクセスします。
2. サポートカテゴリを選択します。
3. ページの下部にある **国/地域の選択** ドロップダウンリストで、お住まいの国または地域を確認します。
4. 必要なサービスまたはサポートのリンクを選択します。